

研究会「長期予報と大気大循環」のご案内

「長期予報研究連絡会」では下記の予定で研究会「長期予報と大気大循環」を開催します。

今年のテーマは「熱帯・中高緯度の季節内変動～現象のメカニズムと予測可能性～」としました。2週間から2か月間程度のいわゆる季節内の時間スケールの現象は、短期予報・週間予報のような大気の初期状態に基づく予測も、季節予報のような主に海洋の状態に基づく予測も困難であることから、その予測可能性が低く、昔から「予測可能性の砂漠 (predictability desert)」と呼ばれてきました。しかし、近年では、季節内時間スケールの諸現象のメカニズムの理解と予測可能性に関する研究が進展してきています。

今回の会合では、熱帯の季節内変動のほか、熱帯と中緯度の相互作用、対流圏と成層圏の相互作用、テレコネクション、ブロッキング現象など、熱帯から中・高緯度にみられる季節内時間スケールの様々な現象とその予測可能性について幅広い分野からの話題提供を期待します。

講演の申し込み締め切りは2017年10月27日（金）で

す。講演を希望される方は、下記連絡先まで電子メールで簡単な要旨（テキスト数行程度以上）をお送りください。1講演あたりの講演時間は20分程度を予定しています。また、発表された方には、研究会後に当会のホームページに掲載する要旨（A4、4ページ程度）を作成していただきます。

なお、講演のプログラムは2017年11月17日（金）までに当会のホームページに掲載する予定です（<http://www.metsoc.jp/about/research-groups/longforc>）。

記

日時：2017年11月28日（火）14時00分～17時30分

場所：気象庁3号庁舎2階 3023会議室

テーマ：熱帯・中高緯度の季節内変動 ～現象のメカニズムと予測可能性～

連絡先：平井雅之、後藤敦史、萬納寺信崇（気象庁気候情報課）

E-mail：extreme@met.kishou.go.jp